国民と自衛隊との架け橋！

隊友 湘南支部ニュース

令和８年８月号（No.274）

発行責任者
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会
湘南支部長 中尾 剛久
茅ヶ崎市赤羽根 2661 - 26
Tel：090-4897-4074

「海上自衛隊の部隊改編（下）」

湘南支部長 中尾 剛久

七月号では海上自衛隊の大組織改編の内容及びそこに至った海上自衛隊としての考え方について述べましたが、今月号ではその影響について考えてみたいと思います。一般的にリソースが限られる中での組織改編では、百点満点の結果を望むことはできません。何らかの凸凹が生じ、妥協を強いられることになります。今回の海上自衛隊の改編において、その凹になる部分はどこになり、その影響はどんなものなのでしょうか。

組織改編を計画する場合は、それが新編部隊であっても単純な増員は認められないことがほとんどです。つまりは、今回新編された情報作戦集団も水上艦隊も、既存の部隊等の人員を出し入れすることによって体制を整えていることになります。情報作戦集団という海将を指揮官とする大きな部隊を新編し、自衛艦隊隷下の水上艦隊には護衛隊群から水上戦群への移行で数が一個減ったとはいえ、哨戒任務群という水上戦群に匹敵する部隊を新編していますので、これらを管理し、指揮する司令部組織はどれほどスリム化を図ったとしても、それなりの規模を必要とするでしょう。人的（定員、実員）にはゼロサムの状況下で適正規模の司令部組織を作るなら、既存の部隊等から抽出するほかありません。今回はその対象になったのは各地方隊であると推察されます。

地方隊は、これまでは掃海艇やミサイル艇、多用途支援艦を隷下に収め、警備区内の警戒監視任務を担っていました。今回の改編により、各水上艦艇等は全て水上艦隊隷下に移管となり、新設された哨戒防備群が警戒監視任務を引き継いだと思われます。これにより、各地方隊から所要の定員も水上艦隊に移管されたものと思います。

と、ここまで記述しているところで、「令和八年熊本地震」が発生しました。酷暑が続く中に被災された方々のご苦難にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を祈念いたします。支部会員の皆様の中にもご親族が被災された方もあると思います。この場をお借りして、重ねてお見舞い申し上げます。また、自衛隊をはじめとする災害派遣活動に従事される方々のご活躍に感謝いたしますとともに、ご安全を心から祈ります。

実は、今回の部隊改編の影響（個人的な懸念とも言えますが）として申し上げたかったのはここにあります。各地方隊は警戒監視任務を削減された一方で、災害派遣対応は重要な任務の一つとして残っているようです。大規模災害発生時に災害派遣部隊司令部として部隊運用の中核を担う可能性のある各地方総監部は、日頃から部隊運用に習熟している必要があります。警戒監視に伴い実施する幕僚活動は、その意味ではとても良い機会になっていました。今後はそれがなくなり平素は部隊運用の機会が乏しい中で、突発的な大規模災害対応の司令部として万全な活動を行うことは少し困難ではないかと思います。

特に、発災直後の初動段階では手持ちの人員で対応させざるを得ません。また、支援に用いる水上艦艇等のビークルも隷下部隊であれば、部隊の予定及び現状を含め把握しているので、直ちに派出可能なビークルを選定し、派遣することが可能ですが、他部隊所属であれば、派出のための調整というひと手間が必要となります。経験不足の幕僚による司令部活動と今まで以上の手続きの煩雑を勘案すると、災害派遣要請を行った自治体等の期待に応える迅速かつ適確なレスポンスが可能なのか検証する必要がありそうです。

「令和八年熊本地震」に関する災害派遣活動は今まさに実施中であり、今のところ順調に推移していると思いますが、これは今春の部隊改編直後であり、各総監部防衛部にも経験者が残っているという幸運もあったと思います。時間の経過とともに人が入れ替わり、部隊運用の経験のない幕僚等のみの編成になった場合でも、今回または十年前の熊本地震で実施したような「作戦」が地方総監部で実施できるような仕組み（体制ではなく態勢）が必要なのではないかと思っています。日頃から部隊運用に携われる環境を作ることが一番良いとは思いますが、例えば、地方隊主催の展示訓練の実施や大規模災害をテーマにした演習の繰り返しの実施による大部隊運用経験の蓄積や、災害派遣に限らず、地方総監が他部隊に部隊派出を要請する場合の手続きの簡素化などは、次善の策として有効ではないかと思います。

これらは、あくまでも外部からの観察に過ぎないので、ここでの記述が的を射たものであるとは限りませんし、また仮にそのとおりであったとしても別途それを補う手段が既に取られていることも考えられます。いずれにしましても、現在実施中の災害派遣任務に従事中の自衛隊各部隊が滞りなく任務を完遂し、被災した方々に感謝をもって見送られる日が一日も早く訪れることを心から祈ります。

安全保障トークサロンのお知らせ

支部理事役 荻原 洋聡

1. 日時：令和８年１０月３日(土)
   １４：００～１７：３０
   （受付１３：３０）
2. 会場：藤沢商工会議所
   「ミナパーク」３階
   ３０３・３０２会議室
   （ＪＲ藤沢駅北口から北へ徒歩約３分）
3. 安全保障トークサロン
   １４：００～１５：３０
   （３０３会議室）
   (1)講師 及び 演題
   内藤 裕之 氏（６０分）
   「ＰＦＩ船舶・なっちゃんワールド号と 内藤裕之船長 の 航跡」
   ～ＰＦＩ事業とＰＦＩ船舶の運用について～

⑵意見交換：参会者からの質問に対する講師の回答を主体

4．懇親会（講師を囲んでの意見交換会）
16：00～17：30
（302会議室）

5．その他

⑴参加会費は無料です。懇親会の参加費は5，000円を受付で徴収します。

⑵当日、体調不良、発熱等がある方は、参加のご辞退をお願いします。

⑶会場等の準備の都合もありますので、出欠返信用はがき、又は電話・E-mail等で9月25日㈮必着にて、出欠可否の返信をお願いします。

⑷なお、会場の収容制限から、先着45名で締め切らさせていただきますのでご了承ください。

⑸ご不明な点がございましたら、左記にお問い合わせ下さい。

連絡先：安全保障トークサロン担当
・荻原　洋聡（おぎはら・ようそう）
・電話：090-5793-5641
・E-mail：yousou-ogi@hotmail.co.jp

故佐藤友昭理事役を悼む

令和8年5月9日他界された佐藤理事役（理事役：令和2年以来現在まで）の訃報を中尾支部長から受けました。体調が優れないとの話は聞き及んでいましたが詳細は不明であったので急逝されたとのことに驚き入院等のお見舞いの機会も無く誠に残念に思っています。

私が支部長の折にも隊友紙、支部ニュースの発送作業主任理事役として極めて活発かつ的確に活動されていたことが思い出されると共に毎月発送作業が終わった後の佐藤さんが準備し持参されたお茶やビスケットを作業者皆さんといただきながらいろいろな話に花が咲いた事等が思い出されますが、もう佐藤理事役にはお目に掛かることもできないのかと人生の無常を感じています。

故佐藤理事役は、「隊友紙・湘南支部ニュースの発送担当主任」として毎月数名の理事役と共に支部会員等へ約120部の郵送作業を自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所で実施し、会員への各種の支部関連ニュース及び支部の諸行事計画等をタイムリーに伝えるネットワークの拡充に貢献されました。また作業の業務改善として郵送要領の改善に取り組み経費及び作業量の軽減に努められた。更に県隊友会本部の重要な年次計画である「神奈川自衛隊音楽まつり」の実行委員にボランテイアとして自主的に参画し、音楽まつり協賛者の名簿作成等を通じ音楽まつりの円滑な実施に大きく貢献されました。

故佐藤理事役は令和2年以来誠に誠実に担当業務を遂行され、隊友会湘南支部の円滑な業務遂行に大きく貢献された事を改めて当支部ニュースでお伝えし、故人のご冥福をお祈り致します。佐藤理事役ありがとうございました。安らかにお眠りください。合掌　名誉顧問清﨑忠圀

（―中尾支部長からの依頼により―　前支部長記）

静かな綻び

支部理事役　皷　達也

我が国での人材不足は経済面で大きな課題であり有限である人材の有効活用が重要である。特に就労希望があるが就労できない者が多い状況も無視できない（厚生労働省・統計白書・第2章人手不足への対応）。アメリカで流行りのフェンタニル依存症（ゾンビ麻薬）などの依存症により貴重な人材が就労不能に陥り生産人口の減少を助長させ医療費などが増加し国力の静かな綻びとなる。

依存症者が増える戦争で有名なのがアヘン戦争で、イギリスは清から茶や絹などを大量輸入していたが、清がヨーロッパの製品をあまり輸入せず、損失が多いイギリスは、解決策としてアヘンを清に密輸し、損失を埋める「三角貿易」を行った。アヘンの流入により、清では中毒者が激増し深刻な社会問題となり、労働力の減少・資金の海外流出などが進み国力の綻びとなった。

薬物依存は違法な物以外でもあり、いわゆる市販風邪薬でさえ一部の人にはオーバードーズという過剰摂取を生み出しており意外と薬物依存は身近なものである。アメリカのペンシルベニア州で広がっているゾンビ麻薬の一部であるフェンタニルは、ベルギーのヤンセンファーマ社により1959年に医療目的で開発され、モルヒネの約50～100倍の強力な鎮痛作用を持つ合成麻薬・鎮痛薬である。主にがん性疼痛や手術時の麻酔・鎮痛に広く使用され筆者もよく手にする薬剤である。致死量は約2㎎と少量で死亡リスクも高い。これが密輸されると依存症者が増え経済が滞り、医療費もかさみ当然国防力低下につながる。

医療の視点で記すと、国力は個々の身体・メンタルともに健康維持することが国力維持にも貢献するのである。そして依存を起こす理由として不安、孤独、ストレスなど心的ストレス回避行動として、一時的な安心を得ようとするための防衛行動である。依存症に至らない為には自分の居場所や役割の獲得、身内や友人または医療機関に相談することが重要である。個人の問題だけではなく当然、外国から依存性のある物質流入を予防する対策も重要である。改めて個々の健康管理と維持そして薬物に負けない環境づくりが国力維持にもつながると思う。

令和8年度年会費納入者（敬称略）

湘南支部長（八月六日現在）

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別会員
甘粕和彦、

正会員
梅津雅仁、

支部会員の訃報

謹んでご冥福をお祈り致します

正会員　故　佐藤　友昭　氏
令和8年5月9日　ご逝去

湘南支部ニュースは、神奈川県隊友会のホームページにも掲載されています。
URL：https://www.taiyukanagawa.com/

「支部の予定」

- **09/04（金）**
  部隊研修(厚木基地)
- **09/18（金）**
  9月号隊友紙発送
- **09/26（土）**
  第6回支部理事役会
- **10/03（土）**
  安全保障トークサロン
- **10/23（金）**
  10月号隊友紙発送
- **11/07（土）**
  第7回支部理事役会
- **11/中旬**
  名所旧跡探勝

編集後記

今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。

編集委員：深澤文晴　,℡:　090-4542-1982,　Mail:　f_fukazawa@yahoo.co.jp